

# あびの文化

発行人 吉彌市寿  
藤井 我孫子  
2-21-23  
04(7185)  
1996

## 第三十回記念文化講演会報告

5月23日(日)我孫子の文化を守る会の三十周年記念文化講演会はアビスタ・ホールに約100名の参加者を集め開催された。

当日は山本鉦太郎氏より、「我孫子の文化を守る会三十周年を祝うー守りながら新たな文化の創造を」という題で我孫子の文化・歴史の素晴らしさについて熱く語っていただいた。以下は当日の講演内容。

我孫子の文化を守る会の創立三十周年、おめでとうございます。

我孫子は、東葛地域で私が最も興味を持っている町です。我孫子は文化・歴史の宝庫です。今から約40年前、知識のない私のようなよそ者がブラリとこの地域に現れ、ふるさと運動を始めましたが、結果として我孫子の文化活動にお役に立てたとすれば大変嬉しく思います。

私は、東京深川木場に生まれましたが、いわゆる東京大空襲の戦災に遭って栃木県の足利に疎開しました。あの戦災では10万人が亡くなりましたが、私も故郷をなくしました。故郷をなくした人の寂しさを味わいましたし、故郷をなくした人の気持ちがよくわかります。勿論、現在でも木場という地はありますが、私の心にある故郷の木場はありません。

なぜ郷土史にのめりこんだのか、**斎書房と私**

私が現在のようにふるさと運動に関わりを持ったのは昭和43年3月に流山に引越してきてからです。当時流山について私の知識といえば、一つだけでした。

つまり味酩の町ということと新撰組組長・近藤勇が捕縛された地ということだけでした。ほんの仮住まいのつもりで移ってきたのですが、ある時「斎書房」と

う出版社が発行した秋谷半七という人の書いた『手賀沼と文人』を読みました。この本は、手賀沼の自然とそこで過ごした文人たちの生活を記したものです。秋谷氏は生まれも育ちも我孫子の人で大正時代の手賀沼を語っており、当時の町の様子や文人たちの生活が身近に感じられます。私はこれをきっかけとして「流山市立博物館友の会」を結成して、郷土史にのめりこみ、ふるさと運動を始めたのです。この時、ただ流山の人だけでなく周辺の我孫子、柏、野田、松戸の方々にも参加して貰うことにしたのです。

**嘉納治五郎と妻の曾祖父坪井玄道**

我孫子に最初に別荘を持ったのは嘉納治五郎だと言われています。柳宗悦の母が嘉納の姉にあたりますが、嘉納は血脇守之助から我孫子の地を勧められたのだと思います。嘉納は明治26年から通算25年間ほど東京高等師範学校(東京教育大学を経た現在の筑波大学)の校長を務め、我孫子にイギリスのイートン校のような学校を建設しようとしたことが、事情もあり断念しました。昭和13年、エジプトのカイロで行なわれたI.O.C総会からの帰国途上の水川丸の船内で客死しました。実は私の妻の曾祖父坪井玄道は嘉納が校長の時に東京師範で教授を務めたということ。嘉納との縁もありました。坪井玄道は体操伝習所の教師などを経て体育学教授となりましたが、その間現在のラジオ体操のもとになる普通体操法やレガッタ競技の教科書を著したり、「二人三脚」なども考案しました。

**凌雲堂医院の松岡文雄さんとの出会い**

我孫子や柳田国男については凌雲堂医院の松岡文雄さんとの出会いを除いては語れません。松岡文雄さんは松岡家の長男・松岡鼎の子にあたり、松岡鼎の生家は兵庫福崎です。では何故、故郷を離れたのか私には疑問がわきましたので文雄さんに色々話を伺いました。それによると松岡鼎は師範学校卒業後19歳で校長になり、20歳で家督を継ぎ結婚しますが、松

岡家は四畳半二間の狭い家で、父母との同居はうまくいかず結局嫁に逃げられました。鼎はその後上京し、東京帝国大学(東京大学)医学部別科に入学、卒業後、茨城県布川町で

開業しました。その後松岡一家は対岸の布佐に移ります。柳田国男は島崎藤村、田山花袋などを連れて布佐を訪れたようです。

柳田国男は松岡家で『利根川図志』の初版本を見つけてます。『利根川図志』の著者赤松宗且は布川の人でしたが、何らかの事情でその本が医院を開業していた松岡鼎家に渡ったのでしよう。柳田国男は『利根川図志』を岩波書店から発行しました。

このように私は疑問を持つと、その疑問に対し「何故?」と思い粘つく、徹底的に追いかけてました。

**元郵便局長で脇本陣所有者・小熊勝夫さんとの出会い**

小熊勝夫さんからは多くの事を学びました。小熊勝夫さんは志賀直哉が病気の赤ん坊を抱いて回春堂に駆け込んだ時、その女の子を見たといいます。志賀直哉は我孫子で「和解」を始め名作を執筆しました。

小熊さんからは杉村楚人冠についての話も聞きまし。楚人冠は朝日新聞の記者で、のち役員になった人



です。ご存知のように朝日新聞では新聞の縮刷版を初めて考案したり、「朝日グラフ」という写真誌を作ったりしましたが、我孫子の住民とも親しく付き合ひ、「湖畔吟社」という俳句の会を作ったり、駅長、町長など「長」とつく人たちを集めて「トップ会」なるものを組織したりしました。

小熊さんはバーナード・リーチとの思い出も語ってくれました。小熊さんがリーチに記念碑を建てたいと言った時、リーチは自分が生きている間はダメと言いましたが、こちらの懇願が通じ、昭和49年6月に禅僧の像を刻んだ碑を建てることができました。この禅僧の像とその碑に書かれた英語の文句はリーチの希望によるものです。

バーナード・リーチは幼少の頃、日本に居たこともあったためか、日本に大変あこがれていました。ある日、イギリス留学中の若き日の高村光太郎に出会います。エッチングを教えながら日本で生活すれば何とかなるかもしれない、そんなアドバイスを受けてついに日本へ来ます。東京下町の上野桜木町という場所でエッチングの公開教授をはじめたとき、そこに柳宗悦、志賀直哉、武者小路実篤など『白樺』同人が参加しました。イギリスの若者と日本の若者が向き合ったのです。私はリーチが居たという上野桜木町の旧居を探すため、リーチの故郷、イギリスのチェルシーにも行きました。元々の資料を洗い直し、磨きをかけて研究しました。日本で上野周辺を探索しましたが、周辺の人も昔のことということで分りません。それでも粘つく、苦勞しながら、最後には探し当てました。

人が書いたものをそのまま写すのでは本当の研究になりません。その資料を自分なりに深く掘り下げ磨き上げ紹介することが大切です。

### 流山（りゅうさん）運動を開始

流山（りゅうさん）でふるさと運動を開始したのは昭和53年のことです。文化や歴史の勉強はもともと行政の地理的・物理的な壁や境を越えて行なうものです。「流山市立博物館友の会」は県境を越えて東葛地域全般の歴史・

文学を研究し、文化の発展、ふるさと運動に寄与することを目的としています。「東葛流山研究」は創刊以来28号まで発行しました。現在、我孫子の文化を守る会の方も多く参加されています。

### ニッポン一汚い手賀沼の浄化運動

かつては底が見えるほど澄んでいた手賀沼ですが、周辺の都市化に伴い手賀沼に注ぐ大堀川や大津川に生活排水や産業排水が流された結果、沼の水質汚染は全国有数となりました。そんな手賀沼浄化を目的として「オペラの台本を書いて欲しい」と依頼がありました。私は音楽のことは全く知識がなく音符も読めません。作曲は仙道作三氏が担当するというところで聞きました。仙道氏は秋田県羽後町出身の作曲家で、東京芸大の教授を務めた人に入門し音楽理論や作曲を学びました。熱心な誘いで私も台本の作成を決意し、そして昭和62年、手賀沼の浄化運動オペラ、市民参加の「手賀沼讃歌」の上演にぎっつけました。

現在、北千葉導水などの影響もあり、ついに手賀沼にサケは帰って来ませんでした。  
（会場の一角に山本氏が持参した「手賀沼讃歌」のポスター、写真数枚が展示されていた）

これからの文化運動のあり方、体験から言えること、そして私の夢

40数年前、東京から流山へ引越してきた頃、東葛についての私の知識はほぼゼロでしたが、今では多くの郷土史を出すほどになりました。これは偏に先人たちのおかげで有難いことだと感謝しています。

これからも生命のある限り情熱をもって郷土の歴史・文化に取組みたいと思っています。

### 最後に我孫子の素晴らしさを

① 「白樺」の人たちが活躍したと

志賀直哉を中心に文学的にも文壇史としても貴重なこと。人数は少ないが「文士村」を形成したといえる。

② 民藝運動発祥の地であること

柳宗悦が発案した民衆の工芸・手芸を「民藝」として広めた。

③ 武者小路実篤が「新しき村」を発案したこと

理想の村、新しき村は現在でも埼玉県で続いている。

④ 多くの作家を生んだ文化的な場所

我孫子は手賀沼を擁した風光明媚な町である。

(了)

### 平成二十二年総会終了

上記講演会に先立ち、同日午後12時30分から同じ会場で平成二十二年の総会を開催しました。

総会には熱心な会員が顔を揃え、出席者は例年に比べ、若干多かったです。当日の議案審議は次のとおり。

第1号議案 平成21年度事業報告

第2号議案 平成21年度決算及び監査報告

第3号議案 役員選出(案)

第4号議案 平成22年度事業計画(案)

第5号議案 平成22年度予算(案)

議案の説明のあと、出席者からの質問もあったが、すべての議案について原案通り可決承認された。

会員からの意見として第1号議案にあったプロジェクトの報告について「各プロジェクト皆さん一生懸命やっておられるのでそのあたりも報告事項として詳しく書いて欲しい」との前向きな提案があった。

当日可決承認された議案について第1号議案を除いて報告する。(別紙参照)

### プロジェクト報告会を開催します(予定)

昨年実施したプロジェクト報告会を引き続き今年も開催する予定である。会場は未定だが(昨年はけやき9階)、9月5日(日)16時から約2時間の予定で計画している。

一昨年からスタートした「各プロジェクト活動」は当初の目的、すなわち自主的な活動により会を活性化するということでは実績を挙げつつあり、外部に向かつても当会の存在感をPRするのに役立っている。

あび「だより」46号

「鵬外私論 ―わたしの森鵬外―」

山崎 鶴郎

私達が子供の頃から、児童文学書や少年少女向けの雑誌などで親しんでいる「安寿と厨子王」の物語は、森鵬外原作の歴史小説「山椒太夫」が原典です。

森鵬外は、明治・大正を通ずる代表的文豪で、中国の古典にも西洋の言語にも通じた知識人ですが、一方では官僚であり陸軍軍医総監まで務めたサラリーマンでした。

謂わば二足の草鞋を履いたが故に、彼が受けなければならなかったサラリーマンとしての屈辱、哀歓を通して、厳しさと優しさ、哀しみに満ちた人間としての森鵬外にアプローチを試み、彼の生きた時代を振り返り、鵬外を学ぶことの歴史的意義、今日的意義を考えてみたいと思います。

内容は次の通りです。

私と森鵬外作品の出会い。子供の頃から今日に至るまで、いろんな機会を通して、鵬外の著作に出会い、人間鵬外に魅力を感じるようになりました。

次に略歴を通して、彼の生誕から、彼の遺言状の事にも触れてみたいと考えています。

また、文学活動とサラリーマン生活という二つの面を貫き通した、近代日本萌芽期の知識人の喜び、苦しみについて迫ります。

最後は、鵬外の作品を一つ選び、目と耳を通して鑑賞し、文章の美しさ、素晴らしさを味わい、また作品の中の主題に就いて、ご参加のみなさまと一緒に考えてみたいと思います。

### 今年度会費(二千円)納入のお願い

本会はひととに会員皆様方の会費によって運営されています。郵便振替口座(00190-3-135476)『我孫子の文化を守る会』伊藤一男宛お振込みください。

### 第98回史跡文学散歩(報告)

「我孫子宿、我孫子文士村を歩く」

鏡水 涼子

6月13日の朝9時、我孫子駅南口前に集まった65名は、副会長越岡さんの案内の下、我孫子の史跡めぐりに出発しました。

最初に訪れたのは、興陽寺。地元の有力者であった小熊郷衛門の墓がある曹洞宗のお寺で、寄進されたという二宮金次郎像が迎えてくれます。興陽寺の後は、白山一丁目



の閑静な住宅街の中にある、岡田嘉子の「関東撮影会」の撮影所跡や、俳人の坂巻純子さんが住んでいたマンションを経て天神坂へ。竹林に囲まれた石段を上っていると、まるで京都を歩いているような気分になります。坂の階段を上りきると、そこには嘉納治五郎別荘跡が。嘉納治五郎は、我孫子別荘族の草分け的存在で教育家・柔道家として活躍した人物です。別荘の敷地からの眺めは絶景で、ここで記念写真を撮りました。

その向かいにあるのは三樹荘。三樹荘という名前は、庭に3本の椎の太木があることからついたそう。柳宗悦や田中耕太郎が暮らし、志賀直哉や武者小路実篤も集った三樹荘は、現在個人のお住まいになっているそう。中には入れませんが、入口に三樹荘の歴史が記されています。

その後、楚人冠公園にて楚人冠の業績を知り、志賀直哉の邸宅跡へ。大木に囲まれ、茶室兼書齋が木陰の中にひっそりと佇んでいました。池の畔には守る会で

寄贈した椿の木が。紫陽花が綺麗に咲いた小道(ケージデンキの裏を通り、石段を上って辿り着いたのは子之神大黒天。そして、そのすぐ隣は旧村川別荘が。村川とは、親子二代にわたって西洋古代史学者として活躍した、村川堅固と村川堅太郎のことです。緑に囲まれた新館に入ってみると、バーナード・リーチがデザインし、我孫子の名大工佐藤鷹蔵が作ったという「二本足の椅子」が展示されていました。壁一面のガラス窓からは、以前は手賀沼が一望できたそうです。村川堅固は、嘉納治五郎や杉村楚人冠とも深い繋がりがあつたそう。我孫子の文人の間で親しく交流があつたことがうかがえます。

文学散歩が終わつたのは、12時半頃。約三時間半にわたつて文化財や史跡を巡り、我孫子の歴史や文人の暮らしに触れ、「文士村」と呼ぶにふさわしいほど、我孫子は多くの文人に愛された土地であつたと感じました。(了)

### 西野場遺跡で新たな発掘始まる

我孫子市役所の東隣りに新たに駐車場ができる予定で、最近杉林が伐採された。駐車場建設に先立ち市教育委員会による埋蔵文化財の発掘調査が5月下旬から行なわれている。発掘現場(高野山251番)一帯は、西野場遺跡として今までも発掘調査が行なわれた場所であるが、今回はさらに広い地域を発掘する予定だ。すでにいくつかの住居跡が発掘され、その中から、かまど跡、土器などが発見されている。土器の多くは壊れて破片となっているが、完全な形で出土した土器などもあるようだ。駐車場はさらに南側にも建設が予定され、発掘はこの後も暫く続きそう。 (写真は発掘現場)



文学掲示板

平成二十二年九月展示作品(文学の広場)

あいよりて水にながるる白鳥は

ゆたかなる背に嘴(はし)ふかく挿す

天王台 池田 弓子

水清き沼にすみいしオシヤレビタ

水の汚れて今は見るなし

本町 井坂 邦子

しぐれたる谷津田に止まるノスリおり

枯草見入る眼するごとし

流山 石垣 幸子

静もれる天神坂は椎のみち

鶯湖と続く今もむかしも

葛飾 石渡 幸枝

なかなかに足温もらぬ小夜ふけを

ふくろふ鳴くは川向うらし

布佐 伊勢佳代子

たまさかの快樂(はら)くも余生のひとときと

あじさい芽ぐむ沼の辺に立つ

つくし野 市川 暉

湖畔六句 「湖畔吟」三十二人一句より

佐藤昭市選

狛犬の阿吽のゆるみ大暑かな

川又 和子

逝きしもの逝きしままなり麦(こ)がし

原口 季代

追ひかける児を追ひかけるしやぼん玉

後藤 茂

四肢と鼻括られ猪の戻りけり

光成 敏子

鷓親し我孫子に越して三年かな

細見 美美子

咳の妻さすれば背の固さかな

宮腰多加雄

第99回史跡文学散歩

血脇守之助ゆかりの三田・高輪周辺を歩く

昨年、当会副会長の伊藤一雄さんが「放談くらぶ」で講演された「血脇守之助と野口英世」の内容はその後、地域紙や経済誌に紹介されて、守之助が英世の生涯に大きく貢献した恩人として、我孫子市民ばかりでなく、多くの人たちに知っていただく良い機会ともなりました。

第99回と第100回の史跡文学散歩は連続で都内にある血脇守之助ゆかりの地を訪ねます。また、その周辺に残る著名な江戸史跡もご案内します。

1. 日時 9月19日(日) 9時〜15時頃

【集合時間】9時【集合場所】我孫子駅改札口内 事前にJR「田町」までの切符を購入願います

2. コース 慶應大学(守之助の学び舎)―三井クラブ―赤穂浪士ゆかりの細川家一泉岳寺―高山

菌科学院跡―長松寺(荻生徂徠家など) (小雨決行)

講師：ガイド 越岡禮子

参加費 会員 無料、非会員 5000円

申し込み TEL&FAX 〇四(七)一八四(二)〇四七

越岡まで(締め切り) 9月10日(金)

今後の行事予定

□7月役員会 7月11日(日)

会場 久寺家近隣センター(いつもの会場と違います)

□「放談くらぶ」

日時 8月1日(日) 14時〜16時

会場 アビスタ、第3会議室(定員20人)

講師 山崎 鶴郎氏

「鵬外私論―わたしの森鴎外―」

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

□プロジェクト開催予定

「我孫子の歴史と文化を楽しむ」

日時 8月7日(土) 14時〜16時

場所 東高野山自治会館―自由参加歓迎―

問合せ先 三谷(七)一八三(一)〇七七

◎関連団体・友好団体のイベントのご案内

■第7回手賀沼学会大会

日時 7月3日(土) 13時〜16時

会場 中央学院大学 30周年記念館611教室

三谷和夫氏が「川瀬巴水の木版画「手賀沼」について」というテーマで発表します。(15時30分)

■「天満敦子ヴァイオリンコンサート」

我孫子市制40周年・ふれあい塾あびこ開塾10周年

記念

日時 9月30日(木) 13時30分開演(13時開場)

会場 けやきプラザ ふれあいホール

海外、国内で好評の「望郷のバラード」を初め、良く

知られ、親しみのある12曲を演奏。地元で、良質の

音楽を、廉価でお楽しみ戴ける良い機会です。

皆様のご来場をお待ち致しております。

全席自由席 2000円

□チケットは一般販売も致しますが、左記にても

予約を承ります。

ふれあい塾あびこ 山崎(文化を守る会会員)

TEL&FAX 04(7)189)4261

メール qnfx370@ybb.ne.jp

主催 NPO法人ふれあい塾あびこ

我孫子市教育委員会

当会の最近の動き(報告)

散歩部会 6月13日、史跡散歩「我孫子文士村を歩

く」参加者65名

手賀沼部会 5月30日、美手連総会出席。講演会「ハ

スから見た手賀沼の水環境」

なお美手連は環境大臣から「地域環境保全功労賞」

を受け、6月7日に表彰式が行われました。

研修部会 6月6日、放談くらぶ実施。「杉山先生と

血脇守之助」

入会会員紹介 安井礼子様が新たに入会されました。

編集後記

昨年、急激な経済不況に配慮し中止した手賀沼花火大会が今年、復活し8月7日に実施される。会場は我孫子会場と柏会場1,2が設営されるが、会場への電車の便では我孫子駅からアクセスの方が断然便利で多くの柏市民もわざわざ我孫子駅まで来る。▲運営母体は柏市商工会議所及び我孫子市と沼南の商工会だが、経済効果は我孫子市が大きい。(美崎)